

Corporate Profile

会社案内



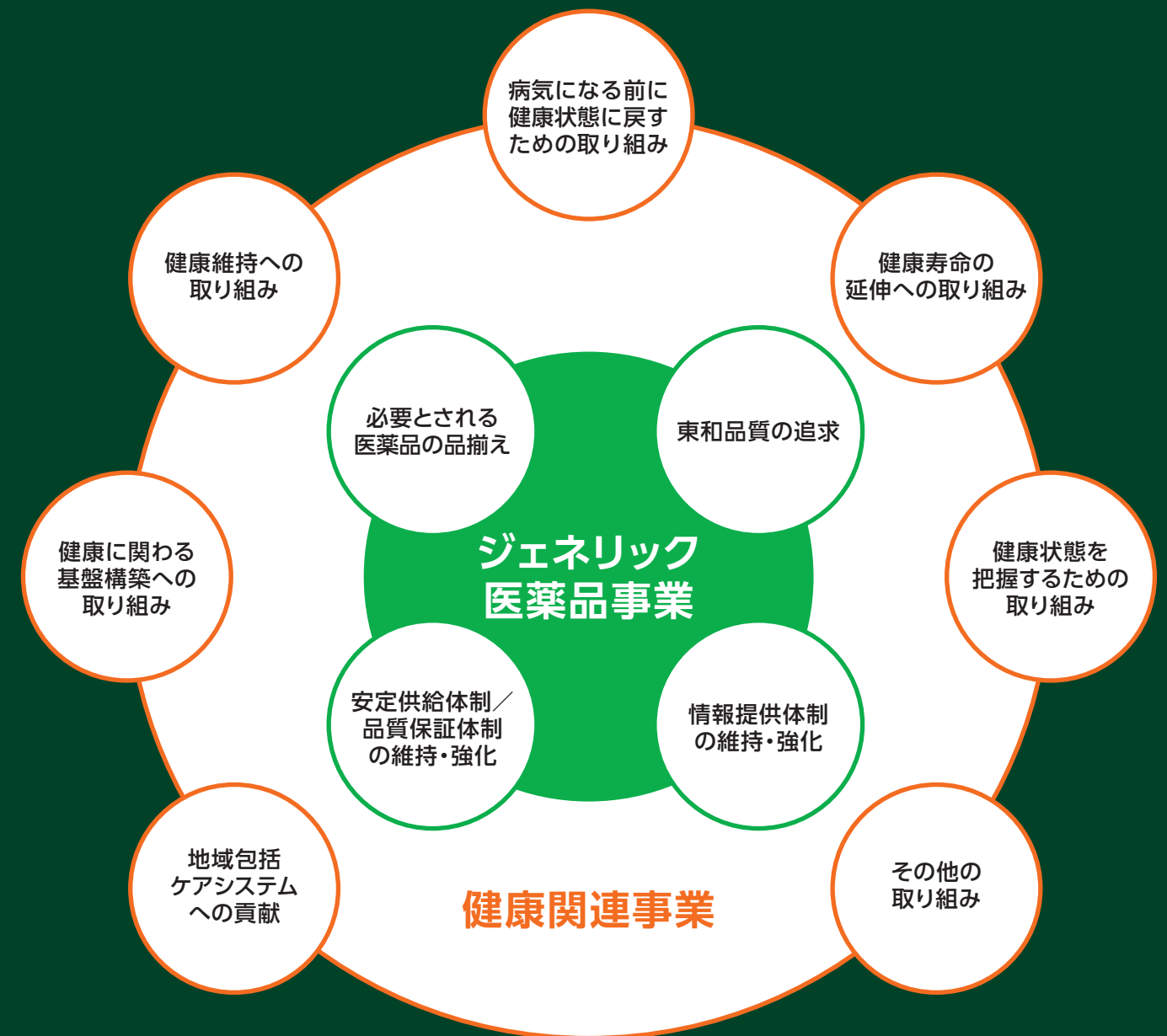
東和薬品

東和薬品が目指していく事業

世界中で長寿化が進み、人生100年時代が現実となりつつある現在、
私たち東和薬品は、健康寿命の延伸に貢献し、
いつの時代も世の中や地域社会に必要とされる企業を目指しています。

そのためにコア事業であるジェネリック医薬品の製造・販売に加え、
病気を予防したり、健康を維持したりしていくための、
食や運動なども含めた製品やサービスにも取り組んでいます。

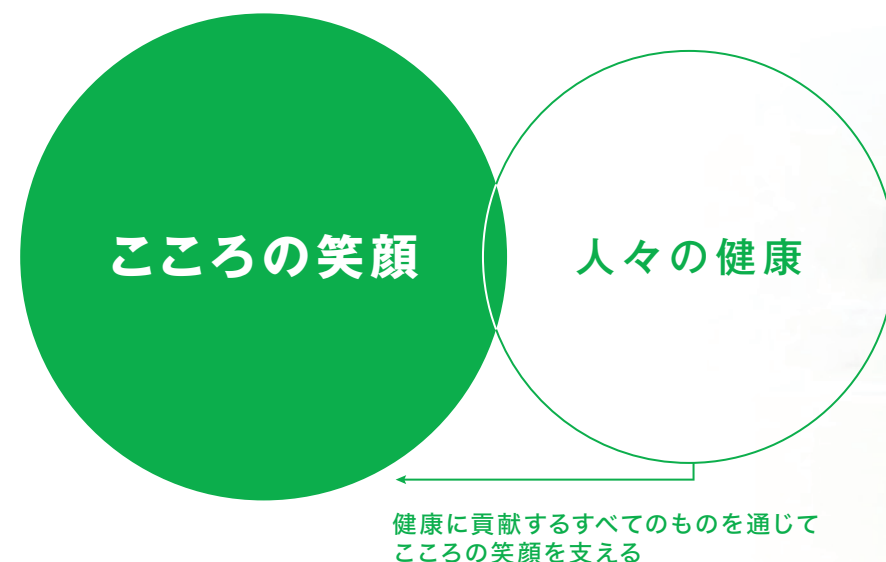
健やかな身体、満ち足りたところにより、よろこびが笑顔としてあふれてくる。
そんな「こころの笑顔」を広げていくために、人々の健康を支えるすべてのことに対して、
最善、最良であることを目指し、
あしたの健康に貢献します。



いつの時代も世の中や地域社会に
必要とされる企業であるために。

企業理念

私達は 人々の健康に貢献します
私達は こころの笑顔を大切にします



東和薬品グループは、優れた製品とサービスを創造することによって、人々の健康に貢献します。

そして私達の企業活動を通して、

患者さん、医療関係者の皆様、地域社会をはじめとするすべての方々にこころから喜ばれ、

求められる企業を目指していきます。

東和薬品は1951年に創業して以来、70年以上にわたってジェネリック医薬品の研究開発・製造・販売に取り組んできました。

超高齢社会を迎えた今、社会保障費、医療費のさらなる増大に対して、医療の質を落とさず、医療費抑制に効果のある高品質なジェネリック医薬品を持続的に安定供給することが求められています。

私たちは「安定供給」「品質確保」「情報提供」を充実しながら、患者さんや医療関係者の皆様にとって「飲みやすく、扱いやすい」医薬品の研究開発に注力してまいります。そして、私たちの高品質で付加価値のある製剤を、日本をはじめとした世界中の国や地域の患者さんへ提供いたします。

加えて、新規事業としての健康関連事業では、健康の維持・増進、未病のケア・予防に必要な製品やサービスの提供を通じて、健康寿命の延伸に貢献してまいります。

東和薬品は「私達は人々の健康に貢献します 私達はこころの笑顔を大切にします」という企業理念を掲げています。いつの時代、どの地域でも、人々に必要とされる製品・サービスを提供し続け、健康に貢献するものを通じて人々の「こころの笑顔」をかなえられるよう、ジェネリック医薬品の研究開発・製造販売をコア事業として、健康に貢献するあらゆる健康関連事業を日本および世界中に展開していくことに、努めてまいります。

代表取締役社長

吉田 逸郎



技術と経験を活かして、
より飲みやすく、扱いやすい製品づくり。

「ひとりでも多くの患者さんに役立ちたい」という思いのもと、
東和薬品では、さまざまな疾患領域をカバーするため、
700品目以上の医薬品をラインナップ。
さらに毎年、数多くの製品を開発しています。
そして、これらの製品には、お子様や高齢者でも
飲みやすいよう形や味を改良したり、
病院や薬局で取り扱いやすいよう、視認性や、
光や温度・湿気に対する安定性を向上させるなどの
工夫を施しています。



製剤開発

RACTAB® 技術をはじめとする、“飲みやすく、扱いやすい”製品づくり。

ジェネリック医薬品は、新薬の特許期間などが過ぎた後に発売することができます。東和薬品では、患者さんや医療現場からの声や思いを受け取り、ご要望に応えるため常に改良・改善を重ね、付加価値のあるジェネリック医薬品を開発しています。製剤工夫はもちろんのこと、包装や見分けやすさにいたるまでさまざまな工夫をおこない、東和薬品が理想とする製品の実現に向けたイノベーションに挑み続けています。

正しく服用いただくための、飲みやすさの工夫

薬を正しく服用いただくためには、飲みやすさがとても重要です。東和薬品では、飲みやすい製剤の開発に力を入れて取り組んでいます。

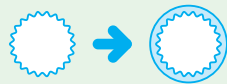
水なしでも飲める「口腔内崩壊錠(OD錠)」

口の中ですばやく溶けるので、飲みやすいのが特徴です。



苦味を感じにくくする「マスキング技術」

苦味を包み込む技術や味・香りをつける技術などを使って、薬をさらに飲みやすくする工夫を加えています。



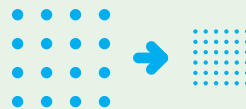
成分は同じで、小型化の工夫

錠剤は小さすぎると扱いにくかったり、大きすぎると飲みにくかったりするので、一般的には7mmから8mm位の大きさが好まれると言われています。錠剤の小型化をおこない扱いやすく飲みやすい大きさの錠剤にしています。



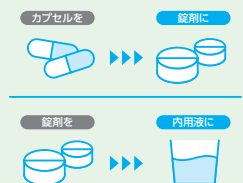
ザラつかず飲める「微粒子化」

粒子を小さな球状にすることで、薬を飲んだ時のザラつき感を抑えています。



薬の形状を変える工夫

例えば、カプセルを錠剤に、錠剤を内用液にするなど、薬の形状を変えて飲みやすくする工夫をしています。

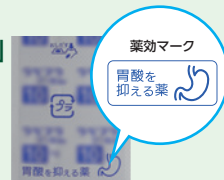


服用時や医療現場での扱いやすさの工夫

患者さんや医療現場で扱いやすい製剤の開発、包装の工夫に取り組んでいます。

見分けやすくする「パッケージの工夫」

薬の飲み間違いを防ぐために、パッケージが見分けやすいような工夫をしています。



分割しても何の薬かわかる工夫

錠剤の割線を認識して、割線の位置に合わせた印刷が可能です。これにより分割後も判読しやすい表示を実現しました。



光による変色・変質を防ぐ「光安定性」

錠剤へのフィルムコーティングや遮光性の高い包装材を採用して、光による製剤の変色や変質を防いでいます。



一包化調剤にも対応できる「耐湿性」

一回服用分ごとに薬を分包する一包化調剤は、薬を取り出す手間をなくしたり、飲み間違いや飲み忘れを減らしたりできます。この一包化調剤に対応できるように、湿度による品質の低下を防ぐ工夫をしています。

医療機関のシステム化への対応

調剤業務の効率化、医療事故防止のため、PTPシート1錠毎にGS1コードを表示する取り組みを進めております。

東和薬品独自の RACTAB® 技術

東和薬品が独自に開発した『RACTAB (Rapid and Comfortable Tablets) 技術』。

「とけやすさ」と「硬さ」という相反する性質を高いレベルで両立することを目指した、水なしでも飲めるOD錠(口腔内崩壊錠)をつくる技術です。また、苦味を包みこむ技術なども採用しているので、口の中で薬がとけても苦味を感じにくくなっています。

高齢や合併症などで飲みこむ力が弱くなったり、水分摂取を制限されていたりする患者さんにも、飲みやすい薬をお届けしたい。また、外出先などどこでも必要なときに水なしでも飲めるお薬をつくりたい。そんな想いから開発しました。

RACTAB技術は子どもからお年寄りまで幅広い層の患者さんにより飲みやすく、扱いやすくした「お薬への工夫」が、お薬に“やさしさ”をデザインしたと評価され、医薬品の製剤技術として初めて「グッドデザイン賞」(日本デザイン振興会主催)を受賞しました。



このマークは水なしでも飲める口腔内崩壊錠をイメージしています。

原薬開発

自社で合成プロセスや製造方法を確立

東和薬品では、製品個々に最適・最良な合成プロセスや製造方法を確立させるための研究を行っています。

また、そのノウハウを蓄積することにより、世界中の信頼できる原薬メーカーから調達した原薬の評価・選定を迅速かつ的確におこなうことを可能にしています。原薬の評価には承認規格への適合だけでなく、東和薬品独自の厳しい基準を設けています。

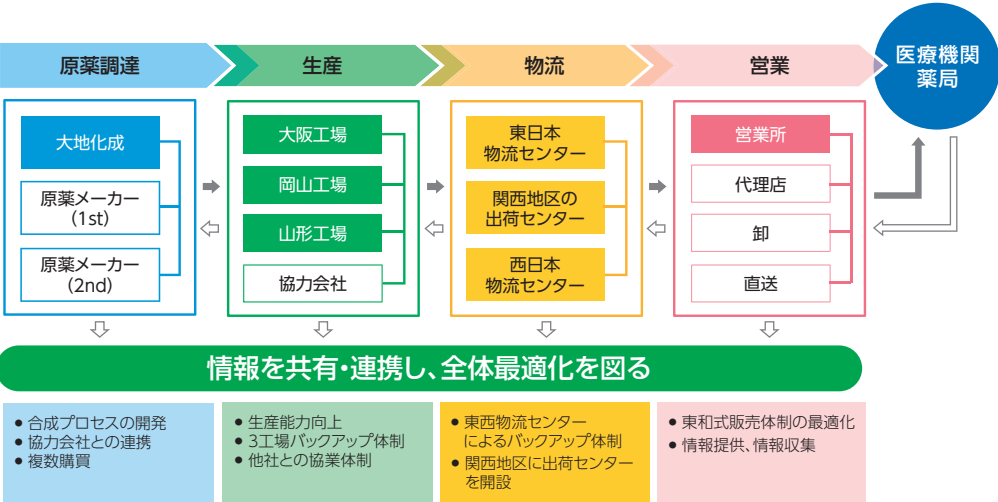


供給体制



責任ある製造管理と品質管理で、
安定的かつスピーディな供給の実現します。

安定供給は医療用医薬品メーカーに課せられた使命のひとつ。
東和薬品では3工場によるバックアップ体制によって、
万一どこかの工場が操業停止した場合でも、
他の工場で補完できる体制を目指しています。
また、「東和式販売体制」を構築し、医療機関のニーズに沿って、
迅速できめ細やかな対応を可能にしています。
さらに、東日本、西日本それぞれに設けた物流拠点は、
物流の効率化を図るとともに万一の際のバックアップ体制も
構築しています。
サプライチェーンマネジメントの視点を重視し、
リスクに応じた取り組みを通して
安定供給維持・強化を図っています。

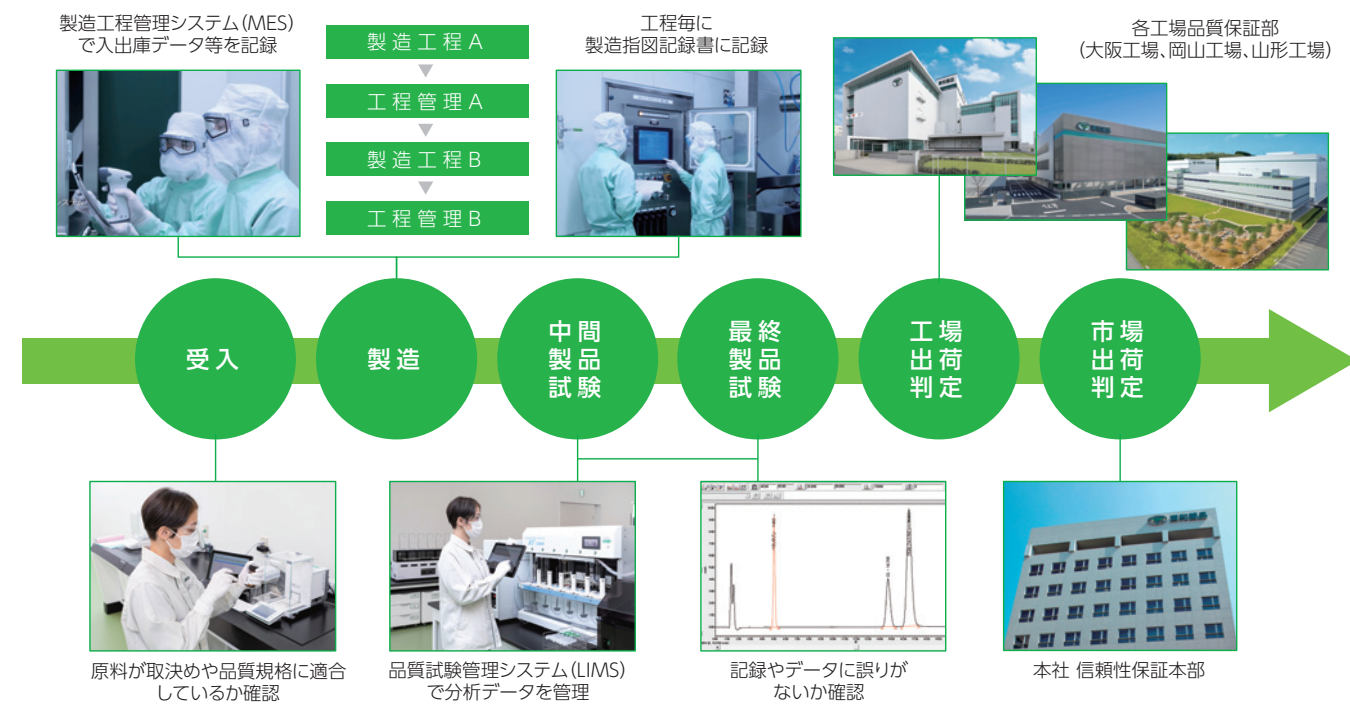


製造管理・品質管理

医療用医薬品業務では、すべての過程において国が定めた厳重な品質管理基準が適用されています。東和薬品では、信頼される企業を目指して、製品の研究開発から製造、営業、製造販売後に至るまで、全社を挙げて品質管理に取り組み、医療用医薬品に必要な品質保証体制を確立しています。

医薬品の製造管理及び品質管理の基準であるGMP省令やその他関連する法令の遵守はもちろんのこと、GMP三原則*で示されている「人為的な誤りを最小限にする」という観点も踏まえつつ、国際基準の導入や独自の制度・教育訓練の実施を通じて、医薬品の品質と安全性の確保に取り組んでいます。

※GMP三原則
医薬品の製造には、GMP (Good Manufacturing Practice) と呼ばれる、国が定めた「医薬品の製造管理及び品質管理の基準」があります。当社は、山形、大阪、岡山のすべての工場においてGMP三原則を遵守した手順を設定し、確かな品質の医薬品を生み出すことに努めています。



原薬確保

原薬を安定的に調達する取り組み

原薬メーカーに対し、さまざまな基準や法令に則った製造がなされているか定期的に調査・確認し、安定的に原薬が調達できるように管理しています。また、万一原薬の供給が停止した場合でも安定的に調達できるよう、1つの原薬を複数のメーカーから調達する取り組み(複数購買化)を進めています。さらに、自社で製造方法を確立させた原薬をグループ会社の原薬製造工場で製造することで、さらなる安定確保に向けて取り組んでいます。



生産体制

高い生産能力を備えた工場による安定した生産体制

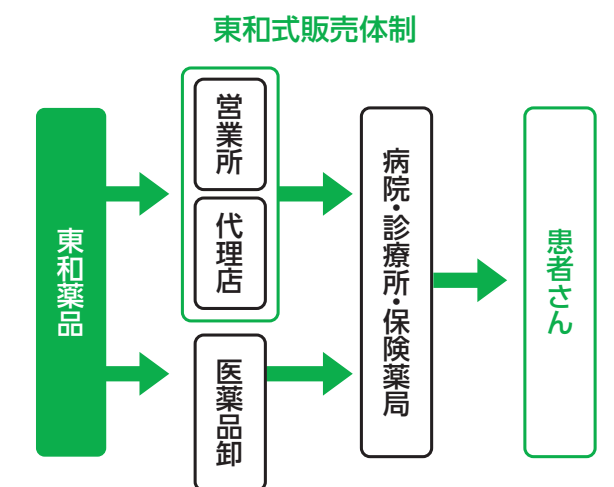
東和薬品は、大阪、岡山、山形に生産拠点を設け、3工場合わせて年間140億錠の生産能力を有しています。内服剤の生産拠点を3工場に分散、注射剤の生産は免震構造を採用した山形工場に集約し、災害リスクを最小限にとどめるよう努めており、先進の設備を誇る3工場が、高い品質と安定的な供給の実現を支えます。万一災害などでどこかの工場が操業を停止した場合を想定し、各工場では通常2シフト体制を採用。有事の際は、他の2工場で3シフト体制を敷き、通常時の生産能力を確保するなど3工場によるバックアップ体制を構築中です。また、グループ企業であるジェイドルフ製薬では軟膏剤、シロップ剤、グリーンカプス製薬ではソフトカプセル剤を製造しており、多岐にわたる剤形に対応した生産体制を確保しています。



販売体制

医療機関のニーズに沿ってお届けする、東和式販売体制

ジェネリック医薬品を医療機関のニーズに沿ってお届けするために、営業所や代理店を拠点として直接医療機関へお届けする直販体制と、医薬品卸を通じてお届けする2体制の、「東和式販売体制」を整えています。また、業界最多のMRが情報提供・収集を行い医療機関からの要望を各部門へと迅速にフィードバックします。



必要とされる情報を、
必要なときに的確にお伝えして
高い信頼づくりに努めています。

医療用医薬品メーカーとしての信頼を得るには、
迅速かつ適切に情報を提供することが大切です。
東和薬品は、医療用医薬品を提供するメーカーとしての
責任を果たすため、専門知識や倫理観、
コミュニケーション技能などの研修を徹底してきた
MRを全国に配置。
ジェネリック医薬品業界最多のMR一人ひとりが
「医薬品情報の提供・収集」を担当しています。
また、24時間365日体制で医療現場からの照会に対応する
「学術部DIセンター」や、患者さんに対しては
「くすり相談」を開設しています。



MR体制

国内ジェネリック医薬品メーカーで最多を誇るMR(医薬情報担当者)が、医薬品を適正使用していただけるよう、医薬品情報の提供・収集・伝達をおこなっています。

MR教育研修要綱に準じて自社独自の教育プログラムを計画し、製品に関する「専門的な知識」、生命に関わる製品を扱う者としての「高い倫理観」、製品の説明やコミュニケーションにおける「技能」について継続的な研修を行い、医療関係者の皆様から信頼される質の高いMRを目指しています。

また、社内研修でがん・免疫領域、精神科領域等のより専門性を必要とされる特定領域でチーム医療に貢献できるMRの育成も行っています。



DIセンター

学術部DIセンターによる情報提供

迅速で確かな情報提供のため、「学術部DI(ドラッグ・インフォメーション)センター」に医療関係者用の窓口を一元化。顧客情報と連携したコールセンターシステムを活用し、後発品の適正使用に資する最適な情報提供活動を行っています。

また、夜間や休日のお問い合わせに対しても24時間365日受付窓口をご用意しております。



患者さんへの「くすり相談」も実施

一般・患者さんに対しては「くすり相談」の窓口を設置。飲み合わせや副作用など、医薬品に関するさまざまな質問事項についてフリーコールでお問い合わせいただけます。患者さんやそのご家族に、製品とともに安心を提供します。

WEBサイト

コーポレートサイトと医療関係者向けサイトで情報発信をしています。コーポレートサイトでは、ジェネリック医薬品に関する情報や、お子様の服薬応援資材などを掲載。医療関係者向けサイトでは、製品情報をはじめ、医療行政情報、患者さんへの服薬指導にも活用していただける資材を掲載しております。



コーポレートサイト



医療関係者向けサイト

情報発信

医薬品を安心して使用いただくための積極的な情報発信

医療関係者に対しては、肝障害リスクを確認できる「T-LEX法®」の試験結果など、医薬品を安心して使用いただくための情報発信をおこなっています。

患者さんやそのご家族へは、薬を正しく使用いただけるよう、薬の飲み方に関する資材提供や、水以外の飲み合わせや味覚に関する研究を積極的におこない、研究結果を提供しています。

その他、病気に関する情報やセルフケアについてまとめた「TOWAミニクリニック」や、塩分の摂り過ぎを予防する「減塩レシピ」など、幅広い方に向けた情報発信もおこなっています。



TOWAミニクリニック

東和薬品グループは、
「私達は人々の健康に貢献します 私達はこころの笑顔を大切にします」という企業活動を通して、
患者さん、医療関係者の皆様、社員とその家族の皆様、地域社会をはじめとする
すべての方々にここから喜ばれ、求められる企業を目指しています。

SDGsへの取り組み

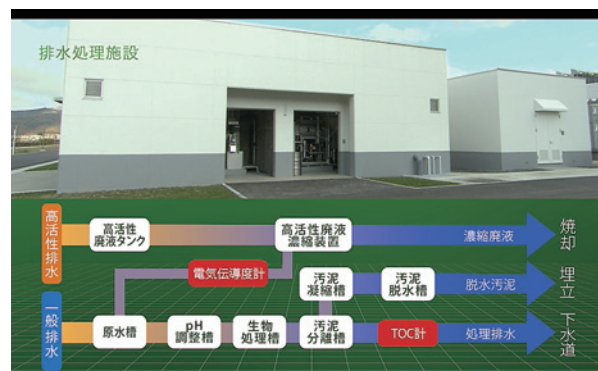
2030年までの国際目標であるSDGs(持続可能な開発目標)に対して、ジェネリック医薬品メーカーとして開発目標の3である「すべての人に健康と福祉を」を中心に、特に工場では開発目標7「エネルギーをみんなに そしてクリーンに」、開発目標13「気候変動に具体的な開発を」に取り組んでいます。



勝中央核工業団地内に設置されたLNG基地



西日本物流センターに設置しているメガソーラー



一部の工場では、敷地内に工場排水を基準以下まで処理する排水処理設備を設置

健康経営の取り組み

よりよい製品は、よりよい環境から。
「社員一人ひとりが自ら"やりがい"を持ち、イキイキと働きつづけることができるような職場環境と、子育てしながら安心して働きつづけることができる企業」を目指し、育児、介護に関するさまざまな活動に取り組んでいます。

ホワイト 500 に認定

経済産業省と日本健康会議が共同で選定する「健康経営優良法人 2022(大規模法人部門(ホワイト 500))」に認定。
健康経営優良法人制度とは、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人を認定する制度で、2017年度より実施されており、当社は6年連続での認定となりました。また、2022年と、2023年には健康経営度の高い上位 500法人として「ホワイト 500」に認定されました。



企業主導型保育施設の設置

育児をしながら働く社員が安心して長く働ける職場環境づくりの実現、さらには待機児童数解消など近隣地域への貢献にもつなげることを目的として、2018年より岡山・山形工場の近接に企業主導型保育施設を設置。
また、他社の企業主導型保育施設と共同利用契約を締結することで、預け入れる保育施設の選択肢が増え、育児休業から復職しやすい環境づくりに力をいれています。



東和ほほえみ保育園山形

会社概要

社名	東和薬品株式会社
本社	〒571-8580 大阪府門真市新橋町2番11号 TEL:06-6900-9100 (代表)
代表者	代表取締役社長 吉田 逸郎
創業	1951年6月
設立	1957年4月
上場取引所	東京証券取引所プライム市場 (証券コード:4553)
資本金	47億1,770万円
事業内容	医療用医薬品の製造・販売

事業拠点

本社	本社 守口別館 東京支社
研究所	中央研究所 製剤研究所 京都分析科学センター 健都ヘルスケア科学センター 健都ライフ・イノベーションセンター 尼崎リサーチセンター 姫路リサーチセンター
工場	大阪工場 岡山工場 山形工場
物流センター	西日本物流センター 関西出荷センター 東日本物流センター
営業所	71拠点

ソーシャルメディア

Twitter
URL https://twitter.com/towa_yakuhin
ID @towa_yakuhin

YouTube
URL <https://www.youtube.com/@user-gp1mp2rb1g/featured>



主なグループ企業

 ジェイドルフ製薬株式会社 医療用医薬品の製造販売 所在地: 滋賀県甲賀市	 大地化成株式会社 医薬品原薬・中間体の研究開発及び製造 所在地: 兵庫県神崎郡福崎町	 グリーンカプス製薬株式会社 医薬品のソフトカプセル製造 所在地: 静岡県富士宮市	 三生医薬株式会社 健康食品・医薬品等の企画・開発・受託製造 所在地: 静岡県富士市	 Towa Pharma International Holdings, S.L. 欧米地域統括会社 所在地: バルセロナ (スペイン)
連結対象外子会社		 Tスクエアソリューションズ株式会社 ヘルスケア関連のITサービス提供等 所在地: 大阪府守口市	 株式会社プロトセラ 疾病リスクの検査サービス事業及び診断用医薬品の研究開発等 所在地: 大阪府摂津市	

1950

- 1951** 昭和26年
- 大阪市東区(現、中央区)淡路町にて「東和薬品商会」を創業

- 1957** 昭和32年
- 大阪市東区(現、中央区)道修町に移転し、「東和薬品株式会社」を設立
 - 大阪市城東区蒲生町に蒲生工場完成

1960

- 1964** 昭和39年
- 寝屋川市上神田に寝屋川工場完成、蒲生工場を閉鎖し統合

1970

- 1974** 昭和49年
- 門真市松生町に新社屋完成、本社機能移転

- 1975** 昭和50年
- 門真市桑才新町に門真工場完成

- 1978** 昭和53年
- 本社敷地内に大阪工場完成
 - 寝屋川工場を閉鎖し、大阪工場と門真工場に統合
 - 門真市桑才新町に開発研究棟完成
 - 門真市深田町に配送センター完成

1980

- 1982** 昭和57年
- 門真市柳田町に大阪第二工場完成
 - GLP適合のため開発研究棟を増設

- 1983** 昭和58年
- 岡山県勝央町工業団地に岡山工場完成

- 1984** 昭和59年
- (名)別府温泉化学研究所を買収し、大分工場として注射薬の製造開始

- 1987** 昭和62年
- 門真工場を閉鎖し、岡山工場と大阪工場に統合

- 1989** 平成元年
- 東和薬販(株)、阪神東和薬販(株)、東和薬品東京販売(株)の3社を吸収合併



岡山工場完成

1990

- 1994** 平成6年
- 日本証券業協会に株式を店頭登録

- 1995** 平成7年
- 岡山工場敷地内に配送センター完成

- 1997** 平成9年
- 門真市新橋町に新社屋完成、本社を移転

- 1998** 平成10年
- 門真市一番町に中央研究所・大阪配送センター完成
 - メクト(株)東北工場を買収し、山形第一工場として医薬品の製造開始



新社屋完成



中央研究所完成

2000

- 2003** 平成15年
- ジェイドルフ(株)の全株式を取得し、子会社化

- 2004** 平成16年
- 東京証券取引所市場第2部へ上場

- 2005** 平成17年
- 東京証券取引所市場第1部へ上場

- 2006** 平成18年
- 門真市松生町に大阪工場完成、大阪第二工場を閉鎖し統合

- 2009** 平成21年
- 大分工場を閉鎖し、岡山工場に統合



大阪工場完成

2010

- 2010** 平成22年
- 大地化成(株)の全株式を取得し、子会社化

- 2012** 平成24年
- 山形県上山市に山形工場・東日本物流センター完成
 - 岡山県勝央町工業団地に西日本物流センター完成、大阪・岡山配送センターを閉鎖
 - RACTAB技術が2012年度グッドデザイン賞を受賞

- 2014** 平成26年
- 山形第一工場を閉鎖

- 2016** 平成28年
- グリーンカプス製薬(株)を設立

- 2017** 平成29年
- 山形県山形市に東日本物流センター完成・移転

- 2018** 平成30年
- TIS(株)と合併会社Tスクエアソリューションズ(株)を設立



山形工場・西日本物流センター完成

2020

- 2020** 令和2年
- ペンサインベストメンツの全株式を取得し子会社化
 - グリーンカプス製薬(株)静岡工場完成

- 2021** 令和3年
- (株)プロトセラの株式を取得し、子会社化

- 2022** 令和4年
- 三生医薬(株)の全株式を取得し、子会社化

